

第28回釜山国際映画祭 New Currents
NETPAC Award 受賞
LG OLED New Currents Award 受賞

第30回ヴズール国際アジア映画祭
Jury Prize 受賞
INALCO Favorite 受賞

第19回大阪アジア映画祭
コンペティション部門
正式出品

Jio MAMI
Mumbai
Film Festival

Minneapolis—
St. Paul International
Film Festival

BFI Flare:
London LGBTQIA+
Film Festival

XPOSED Queer
Film Festival
Berlin

Asian
Film Festival
in Italy

Hong Kong
Asian
Film Festival

Cinemataya
Philippine Independent
Film Festival

FASTIES
SOLIDS

世界の端の街で、
あなたと出会った。

今日の海が 何色でも

SOLIDS BY THE SEASHORE ทะเลของฉัน มีกลิ่นเล็กน้อยถึงปานกลาง

Directed by Patiparn Boontarig Starring: Ilada Pitsuwan Rawipa Srisanguan

監督/脚本:パティパーン・ブントリク 出演:アイラダ・ピツワン ラウイパ・スリスアングアン 製作:Diversion 配給:Foggy 配給協力:アークエンタテインメント

仏教国タイの南端、イスラム文化が息づく国境近くの街に暮らすシャティ。
結婚を急かされる彼女は、海に惹きつけられたアーティストのフォンと…

foggy

G
R 15

パティバン・ブンタリクはマジックリアリズムに傾倒し、波に浮かぶ人生と、波にぶつかるだけの人生という2つの憧れを反映しようとしている。

— Film Police Reviews

この賞の最大の意義である「新しいビジョン」を体現した作品を探した。『今日の海が何色でも』を観ながら心が揺さぶられた。

— 釜山国際映画祭 LG OLED New Currents Award

人間と人間、人間と自然をめぐるさまざまなテーマを、柔軟な姿勢で明確に提示している。人間と自然だけでなく、時間の流れ、伝統と変化、ミクロとマクロを映像で繊細につなぎ、不確かな未来への想像をかきたてる。

— 釜山国際映画祭 NETPAC Award

演出の繊細さと、ムードや雰囲気を見事にコントロールすることによって、その価値を高めている。— Screen International

パティバン・ブンタリクの感覚的な演出は、この映画の大きな成功のひとつである。この映画監督は、雰囲気の切れ目を巧みに利用している。今年最高のアイデアのひとつであることは間違いない。

— Le Polyester

異文化とジェンダーの狭間で描かれる、静かで深い共感の映像詩。



バンコクの映画学校を卒業した後、私はタイ南部で短編映画やドキュメンタリーの制作に時間を費やしてきました。南部にいる間、地元の若い作家や芸術家と友達になりました。彼らの多くはイスラム教徒であり、アイデンティティの葛藤に直面していました。保守的な家族には知らせず、同性との関係を楽しんでいる人もいました。タイはリベラルであると見なされているかもしれませんが、現実には、特に農村部ではLGBTの権利が抑圧されています。そのような中でも、草の根運動は根強く続いています。

私は自分の人生で集めたさまざまなメモや体験をつなぎ合わせ始めました。映画監督や社会活動家としての背景、偏見との出会い、男性性にまつわる有害な価値観を体験したこと、そして幼少期に祖父母と過ごした記憶などです。私はこれらの物語を、それぞれの関心を共有した友人たちの物語と織り交ぜました。私の共同制作者で、同じテーマに興味を持つイスラム教徒のKalil Pitsuwanが脚本の共同執筆に協力し、内部の視点を加えてくれました。

私は人類が自然現象と絶えず戦い続けていることについて考えています。それはある意味、腐敗した政府が抗議者に対して行うことや、宗教当局が同性愛者に対して行うことに似ています。彼らは皆、最終的にはさらなる破壊をもたらす不毛な戦いに従事しているように見えるのです。

Patiparn Boontarik

監督：パティバン・ブンタリク

バンコクのタマサート大学で映画と写真を学び、卒業後、監督および脚本家として数多くの短編映画やドキュメンタリーに取り組む。プッティポン・アルンペン監督の『マンタレイ』（2018年ヴェネチア国際映画祭）やジャックワーン・ニンタムロン監督の『時の解剖学』（2021年東京フィルメックスグランプリ）では助監督を務めた。タレンツ・トーキョー2018修了生。『今日の海が何色でも』は初長編監督作である。

[ストーリー] 仏教国タイの南端、イスラム文化が息づくマレーシアとの国境の街、ソングラー。かつて美しい砂浜があったが、高潮によって侵食され、現在は護岸用の人工の岩に置き換えられている。そこで二人の若い女性が出会う。シャティは保守的な家庭に生まれた地元のイスラム教徒。フォンは活動家からビジュアルアーティストに転身し、美術展のために街に来た。

お互いを深く知れば知るほど惹かれ合う二人。同性関係を禁じる伝統のもとで生きてきたシャティは内なる葛藤の波に飲み込まれていく。恐怖と欲望の板挟みになった彼女は、亡くなった最愛の祖母が語った幼少期の古い教訓の物語を思い出す。シャティの前に、祖母の物語にある奇妙な異世界の出来事が次第に起こり始め……。シャティは自分自身の道を切り開く決意をし、自分が何者であるかを受け入れていく。

今日の海が何色でも

監督・脚本：パティバン・ブンタリク（初長編監督作品）

出演：アイラダ・ピツワン、ラウィバ・スリスアングアン

2023年 / タイ / タイ語・南部タイ方言 / 93分 / 1.85:1 / カラー / 5.1ch

原題：ทะเลของฉัน มีคลื่นเล็กน้อยถึงปานกลาง / 英題：Solids by the Seashore

協力：タレンツ・トーキョー、ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム、大阪アジア映画祭

製作：Diversio / 配給：Foggy / 配給協力：アークエンタテインメント

movie.foggycinema.com/kyounoumi

TikTok @foggyjp Instagram @foggyjapan X @foggyjp Facebook @foggyjp

1.17 Fri～ ROADSHOW!

明治通り沿い 地下鉄 B1 出口正面 ココナビル 8F
テアトルシネマグループ
ヒューマンラストシネマ渋谷
03 (5468) 5551 ttcg.jp

